

## 美の里づくり審査会特別賞

自然と暮らしを考える研究会（佐賀県唐津市）

ふるさと水車文化むら「水辺と田んぼの<sup>がっこう</sup>楽校」推進

自然の営みを21世紀に残そうと1996年に「自然と暮らしを考える研究会」を発足し、昔から伝わる町切水車の継承と水車復元に取り組んできました。社会環境の変化と共に2基にまで減っていた「町切水車」を4基復元しました。今では毎年5月末に「水車の取付け研修会」と銘打って参加者全員で6基の水車を取

付け、田植から秋の収穫まで田んぼに水を注いでいます。

水車の回る用水路のある町切地区は、佐賀県北部に位置し、松浦川水系の<sup>きゅうらぎ</sup>巖木川の中流域にあります。この用水路は町切堰を取水口として1650年頃に築造されたもので、その距離は5kmにおよび、これま



で地域の暮らしを支えてきており、先人たちが残した「民族の遺産」として大切にしています。また、これまで便利さだけを求めてきた生活を見つめ直し、「水辺や田園空間」の多様性を再発見して「21世紀を背負う子どもたちに残そう!」と環境学習の場として活用しています。最近では地域の人たちのウォーキング、散策コースや県内外からの見学者も多くなっています。

「自然と暮らしを考える研究会」を発足したあと、昔から伝わる町切水車の継承と水車復元に取り組み、これまで毎年一つずつ4基の水車を間伐材を使って復元して、現在では水車の取付けは地区の行事になっています。

水車は、大陸を経由して日本へ西暦600年代に入り、特に江戸時代には全国で「新田開発」による用水路が築造され、明治20年ごろには6万ヶ所以上が稼動していたと言われています。

このようなことから、「町切水車」を巖木川の恵みと命がけの戦いの成果が生んだ民俗の遺産として残し、また水車が回る田園とその横を流れる大川沿いの水辺を自然体験や環境学習できるフィールドとして整備を行い、子どもたちが安心して遊び、学べる環境を創出しています。



このように、地区の用水路と町切水車は、江戸時代の前期に8基の水車が稼動し、まさに自然と営みを共にしてきました。そこには大変な苦労があったことは言うまでもありません。それから5世紀の間現在に引き継がれ、今でもこの地域では毎年田植前になると、巖木川に造られた「町切堰」の浚渫作業と用水路の清掃は地域住民の手で行われています。

水の営みは、食料の安定的な供給の基礎であるとともに、国土、環境保全、美しい景観の形成など多様な役割をもった国民の財産です。

私たちの活動は、農村の過疎化、高齢化などによる維持管理の困難さを認識しながら、ふるさとの景観と地域の特性を再発見し、地域の憩いの場として具体的に提案していきます。

#### ■講評

本地区では水車を復元することに加え、取付作業を研修会というイベントとして活用するというユニークな活動がなされています。また、「水辺と田んぼの楽校」と銘打ち、水車を「民族の遺産」と位置づけることで地域住民が用水の役割をよく理解し、また周辺の豊かな自然環境を保全・活用するための多様な活動に、地区住民が積極的に参加しているところが評価されました。

